こんな本があります

渋谷の大正を知る関係の本

分類	資料名	編著作者	出版者	出版年
S17	東京府渋谷町〔大正 14 年発行〕（大日本職業別明細図之内）復刻版		渋谷区立渋谷図書館	1925
S17	東京府渋谷町〔昭和３年発行〕（大日本職業別明細図之内）復刻版		渋谷区教育委員会	1991
S17	１万分１地形図 四谷・三田・中野・世田谷（４面で渋谷をカバー）大正 10 年修正測図	『１万分１地形図渋谷区関係部分集成』に収録	地図は国土地理院発行	
S12	東京府豊多摩郡誌	東京府豊多摩郡役所／編	東京府豊多摩郡役所	1916
S12	渋谷町誌（複製）	有田　肇／編	渋谷町誌発行所	1914
S12	渋谷町誌 渋谷警察署新築記念（複製）	渋谷警察署新築落成祝賀協賛会／編	渋谷警察署新築落成祝賀協賛会	1935
S12	渋谷風土記　旧史編	有田　肇／編	東京町報社	1935
S13	郷土渋谷の百年百話	加藤　一郎／著	渋谷郷土研究会	1967
S12	千駄ヶ谷町勢一覧	千駄ヶ谷町役場／編	千駄ヶ谷町役場	1917
S12	千駄ヶ谷町要覧　所蹟篇	高田　穣／編著	千駄ヶ谷町報社	1927
S12	千駄ヶ谷町誌	中原　慎太郎／編	千駄ヶ谷町誌刊行会	1930
S12	千駄ヶ谷の歴史	矢島　輝／編著	鳩森八幡神社	1985
S12	千駄ヶ谷昔話		渋谷区教育委員会	1992
S12	幡谷郷土誌	堀切　森之助／編	渋谷区立渋谷図書館	1978
S17	渋谷区土地利用図 大正 10 年（1921 年）		渋谷区立白根記念郷土文化館	1980
S34	渋谷道玄坂	藤田　佳世／著	弥生書房	1977
S34	巷談・渋谷道玄坂	藤田　佳世／著	青蛙房	1984
S34	大正・渋谷道玄坂（シリーズ大正っ子）	藤田　佳世／著	青蛙房	1994
S34	幼年（文春文庫）	大岡　昇平／著	文藝春秋	1975
S34	東京の三十年（岩波文庫）	田山　花袋／著	岩波書店	2011

しぶや、あの日 あんなこと そして こんな本
― 渋谷区地域資料通信 6 ―
2020 年 6 月 10 日
編集/発行　渋谷区立中央図書館　　㈱図書館流通センター
渋谷区神宮前 1-4-1　　3403-2591
図書館ホームページ＞しぶやのページ
https://www.lib.city.shibuya.tokyo.jp/?page_id=209

しぶや あの日 あんなこと そして こんな本

渋谷区地域資料通信 6

渋谷驛邊（あたり）・T14（たいしょう 14 ねん）

今から 100 年前といえば大正 9 年（1920）ですが、そのころに現在のような渋谷駅周辺再開発の進む渋谷の賑わいが想像できたでしょうか。当時の渋谷区域は豊多摩郡の渋谷・千駄ヶ谷・代々幡の三町で東京市の郊外を形成していました。この年には第１回の国勢調査が実施され、渋谷区域の人口は 13.7 万人と、現在の５分の３程度でしたが、しだいに都市化の波が寄せてきた時期になります。この３年後には東京・横浜を関東大震災が襲い、渋谷区域にも少なからず被害がありましたが、壊滅的な被害を受けた市内からは避難者が陸続と近郊町村を目指し、渋谷区域でもその数は、88,000 人[*1] 余りに達しています。大正・昭和と長く大和田に住んでいた藤田佳世がそのありさまを「道玄坂を世田谷方面指して登って行く人々は裾もはだけ、袖口や袖付のほころびもそのまま、死人のように青ざめて、やっと歩いているというふうであった。」[*2] と綴っています。

さらにその２年後の大正 14 年の渋谷駅周辺を描き出しているのが中ページの地図です。大正 9 年には 300mほど南に位置していた渋谷駅が移転してきて新駅舎も建てられ、昭和にかけて多くの鉄道駅が設けられるターミナル化の端緒となります。震災は渋谷の都市化に拍車をかけることになり、ここに大正 14 年の発展しつつある様を読み取ることができます。

大正末期渋谷駅
白根記念渋谷区郷土博物館・文学館

この 100 年の間、戦後復興を挟んで様々に変貌を遂げてきた渋谷駅周辺ですが、今次の再開発はそのすべてを塗り替えしてしまうほど大規模なものです。これからの 100 年はまた想像することもできない渋谷の姿を現出させるのでしょう。

*1 大正 12 年 9 月 14 日東京府調査　　*2 藤田佳世『大正・渋谷道玄坂』（1978 青蛙房）

澁谷驛邊・T14

「遠州屋酒店発祥の地」の銘がある定礎

妙祐寺

寺伝によれば、はじめ弘安９年（1286）、一遍上人が遊行の際に草創して天護山円証寺といいました。その後久しく廃絶していたのを、寛永２年（1625）玄的坊了頓がこの地に来り、円証寺を再興して満歳山学恩寺と称したといいます。延宝５年（1677）に妙祐寺と改称しています。戦時に焼失し、昭和27（1952）年に世田谷区に移転しました。（「新修渋谷区史」より）

村井銀行・遠州屋

村井銀行は明治37年（1904）に設立され、その後合併・買収により昭和銀行、安田銀行、富士銀行などを経て、みずほ銀行になりました。現在はみずほ銀行渋谷支店と遠州屋の共同ビルになっています。

渋谷小学校

渋谷小学校は明治8年（1875）、中渋谷村２番地に公立小学校として創立されました。当初の維持費は宮益橋下の水車の利益金で賄われたといいます。明治36年に現在のヒカリエ辺りにあたるこの地に移りました。この大正14年（1925）に50周年を迎えています。

大盛堂書店

藤田佳世の『大正・渋谷道玄坂』によれば「大盛堂書店はすでに七十年に近い歳月を道玄坂と共に歩んで来た店である。初代の舩坂米太郎氏は山梨県の造り酒屋の次男として生まれ（中略）農大、国学院など、この周辺の学校を主にして書籍を売り歩き、二年間の刻苦の末に、道玄坂下、十字路の右側に書店をひらいたのである。まだ宇田川橋の欄干がここにあった明治四十四年八月のことであった。」とある。一時期、別の場所にも大型店舗を構えていましたが、大盛堂書店は現在もこの場所に店舗を構えています。

市電延伸

東京鉄道として明治39年（1906）に「青山七丁目」まで開業していた路面電車は、宮益坂の改修に伴い明治44年に市電になるとともに渋谷まで延伸され、大正12年には現在のJR線をくぐり渋谷駅前に停留所を設けました。

長井長義邸

長井長義はエフェドリンを抽出した薬学者で、日本の近代薬学の開祖といわれています。現在、長井邸の跡地には日本薬学会長井記念館が建っています。

鈴木梅太郎宅

鈴木梅太郎は脚気の予防に有効とされる糠の有効成分（のちにオリザニンと命名、ビタミンB1にあたる）を抽出することに成功した農芸化学者。この頃上渋谷141番地に住んでいました。

玉電延伸

玉川電気鉄道は明治40年（1907）に渋谷で二番目の鉄道として開通しました。旅客のほかに多摩川の砂利を運ぶことも仕事の一つであり、地図を見ると渋谷駅前に砂利店があることがわかります。大正9年に現在のJR線が高架化されると、大正11年にはそれをくぐって恵比寿・広尾方面に延伸され、さらに13年には天現寺橋まで開通しています。延伸部分が東京市電に組み込まれるのは昭和12年（1937）になります。

渋谷憲兵分隊

明治33年頃に東京憲兵第二分隊渋谷村分遣所として始まり、大正２年（1913）に渋谷憲兵分隊となりました。第７代目の分隊長が甘粕正彦大尉で、関東大震災時に無政府主義者大杉栄などを虐殺した甘粕事件を起こした時には麹町分隊長を兼任していました。

渋谷駅

明治18年（1885）に日本鉄道品川線の渋谷停車場として開業しましたが、位置はこの場所よりおよそ300mも南でした。大正9年には高架化され駅もこの場所に移ってきます。これから昭和初期にかけて東京横浜電鉄（昭和2年：東横線）、帝都電鉄（昭和8年：井の頭線）、東京高速鉄道（昭和13年：地下鉄銀座線）などが相次いで開通し、渋谷駅のターミナル化が加速されます。
この年に渋谷を訪れた永井荷風は『断腸亭日乗』の大正14年3月10日に「春の日うらゝかなり、郊外の梅を探らむとて渋谷まで行きしが、荷馬車の往復激しく、砂塵甚だしき故、中途より帰る。」と記しています。

千代田稲荷

もとは宮益坂の下を入ったところにあり、その創立については明らかでありませんが、『増訂武江年表』の文久3年（1863）の項に「中渋谷村宮益町裏千代田稲荷はやり出し、日毎に貴賤男女歩を運びしかば（中略）諸商人出で賑わいける」とあり、幕末には信仰が盛んになったようです。大正12年に上渋谷12番地からこの地に遷座しました。

藤田佳世宅

藤田佳世は大正・昭和にわたって長く大和田に住み『渋谷道玄坂』など一連の作品を著しています。その実家である「市川諸問屋」、嫁した「藤田セトモノ店」はこの辺りにありました。
（『大正・渋谷道玄坂』の地図より）

内田定槌邸

内田定槌はニューヨーク総領事や駐トルコ大使などをつとめ、明治大正期に活躍した外交官です。明治43年（1910）に南平台に建てられた内田邸は立教大学校長を務めたJ.M.ガーディナーの設計によるもので、建物は現在横浜市のイタリア山庭園に移築され、「外交官の家」として国の重要文化財に指定されています。

百軒店

百軒店は大正10年頃に中川伯爵の所有地を箱根土地会社が買い取り、分譲しようとした矢先に関東大震災が起こり、これを機会に宮益坂の千代田稲荷をこの地に移し下町の有名店を招いて第二の勧工場（現代の名店街のようなもの）を作りました。しかし、下町の復興が成るにしたがって有名店は戻って行ってしまい、当初の目的は果たせませんでしたが、その後この地には次々に小料理店・喫茶店・カフェー・映画館などができ、花街であった円山町とともに一帯が道玄坂の繁華街となります。
（「新修渋谷区史」より）

渋谷町商工地図（大正14年）

「商工地図」とは戦前の都市案内地図で、商店や会社をはじめ公共施設、病院、寺社、名家などが記載され、網羅的ではありませんが、現在の住宅地図に近いものです。この地図は大正14年（1925）に東京交通社から出版された『大日本職業別明細之内 東京府渋谷町』を昭和54年に渋谷区教育委員会が覆刻した地図より渋谷駅周辺を抜粋して使用しています。